

AJU

コンビニハウス

会報

編集/コンビニの会事務局  
連絡先/〒452-0807 名古屋市西区歌里町147番地  
TEL/FAX(052)505-6082(コンビニハウス)

障害をもつ人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人  
コンビニの会

定価/150円  
昭和54年8月1日第三種郵便物承認

第162号



赤いひなげし (シャレーポピー)

花だより「ひなげし」

自然写真家 河嶋 秀直

春になると優しい色の花を咲かせるひなげし、早咲きの「アイスランドポピー」(シベリアひなげし)と遅咲きの「シャレーポピー」(ひなげし)が有名、別名「虞美人草(ぐびんそう)」と言う。

赤い「ひなげし」は、英連邦の国々で戦没者の象徴とされていて、毎年十一月十一日は「ポピーデー(リメンブランス・デー)」と呼ばれ、戦没者追悼行事が行われている。

オーストラリアやニュージーランドでは、四月二十五日の「アンザックデー」にも同じように各地で追悼行事が行われる。

その日は、造花の赤いポピーの襟章を着ける慣習があり、平和主義者は白いポピーも一緒に着けると言う。

彼らの目に映るひなげしは、僕ら日本人が見ているものとは違うものなのかもしれない。

花言葉には「いたわり」「思いやり」などがあり、赤には「慰め」「感謝」などがある。

今の時代、心に留めておきたい花言葉たち。

(次頁へ)

細い茎の先に花を咲かせ折れてしまいうのだが、思う以上にしなやかな茎で強い。

僕はこの花に人一倍の思い入れがある。

昔から写真を撮る事が好きで、写真展に足しげく通っていた時期があった。

その中の一つの写真展に飾ってあった「ひなげし」の前で動けなくなってしまった。

その頃の僕には、出せない色使いで、その色がそれから僕の目標になり、今でも写真を続けられている所以かもしれない。

何か目標があれば頑張れる事がある。

みんなの頑張りのおかげで今年になって、少しづつ笑顔が戻ってきている気がする。

余裕が生まれれば、足元に咲く花たちや、空に浮かぶ雲たちも目に映り、心に幸せを沁み渡らせることが出来るそうだ。

そしてみんなで倅せを感じられればいい。



平和主義者の祈り

### 雑記 ごまめの歯ざり

#### トランペットと少年

統一地方選挙が行われた四月二十三日、わが町でも町議会議員選挙があった。

投票所は、隣の地区の公民館で町の中学校のすぐ横にあり、夫にとつては懐かしい場所だった。投票を済ませると、中学校の校庭を歩いてみることにした。

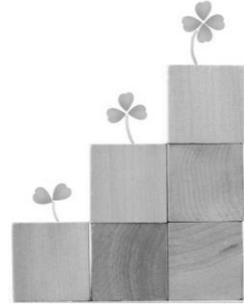
「昔は高低差を生かしてクロスカントリーのような道がつくってあったから、よく走ってた」と夫が言うのだが、どこにもそれらしい道が見当たらない。その代わりに畑ができていた。鳥獣除けのネットが張られ、玉ねぎなどが栽培されていた。唯一林の中の一部に細い道が残っていただけだった。自分が学んだ古い木造の校舎もなくなり、重厚ではあるが無機質な建物が点在していた。

敷地内をさらに歩いていくと、整備された花壇があった。その横には昔と変わらず小川が流れていた。ほっと一息して立ち止まると、目の前にそれほど新しくもなく古くもない木造の建物が建っていた。玄関の窓越しに中を覗いてみると、見覚えのある絵が飾られていた。パステル調の瑞々しい色合いで、一人の少年がトランペットを吹いている絵である。

「美術の先生が自分をモデルにして描いてくれたんだ。この絵の他に何枚もある」と嬉しそうに話す夫の顔が一瞬少年に戻った。卒業して四十五年、還暦を過ぎたが、変化を恐れずにまだまだ挑戦できることがあるはず、とその絵が教えてくれているようだった。

この日の夜、町の放送で選挙結果が流れた。トップ当選したのは、今回初めて立候補した三十四歳の男性だった。私は心の中で「やったー」と叫んだ。大勢の人たちが変化を求めている。この町にも新しい風が吹きそうだ。(支援者 上村 明美)

## 人を育てる 【生活支援部編】



### 【生活支援部 職員 久野 穂】

先月に続き、中堅職員に「人を育てる」難

しさや自身の目標を自由に書いてもらいました。生活支援部は1人で向かい合う仕事が多く、難しい状況での対応力が求められることもしばしば。若いのに老成した雰囲気を持った人が多いのですが、内面は葛藤したり、悩んだり、まだまだ成長途上です。

(コンビニの会 理事 宮川 優子)



職員の育成に限ったことではありませんが、生活支援部特有の報・連・相の難しさを感じています。私が就職した当初に所属していた通所部では全員が同じ時間に勤務しているのですが、何かあった時に複数人が近くにいるので、フォローをすることができていました。またその日のうちに集まってどうするべきだったのか話をする機会を設けることができていました。

しかし生活支援部へと異動すると状況が大きく変わりました。勤務する時間も場所もバラバラなので、何日も会話はおろか顔を合わせない職員がいるということがよくあります。記録を読んだり利用者さんやご家族から話を聞いて気になることがあっても会わないうちに忘れる、上司に報告するほどでもない個人で判断して問題が表に出たことなかつたりすることがあります。これらは生活

支援という勤務の特性ゆえに起こる問題なので、完全になくすることはできません。やりにくいと理解したうえでどうしていくか考えることが大事です。

上手な方法があれば教えてほしいというのが本心ですが、一つ心がけているものがあります。直接顔を合わせたときに相手をよく見るといことです。以前の相手と今日の相手とで間違い探しをしているようなイメージなのですが、変わった点に気が付けるように意識しています。挨拶が小さかったりため息が多かったりなどの小さな異変でも、ただ疲れているだけなのか悩みがあるのか、続けて見ていると原因らしきものが感じられるようになります。

また悪い点だけではなく、良い点についても目を向けなければなりません。悪い部分は業務に影響が出るので目立ちますが、その人の努力しているところや成長した部分は寧ろ

る業務が円滑に進むので見落とされがちになります。ダメなことだけではなく、いいことも伝えるように意識しています。

このように書いておいて、後輩からは実際にできていないだろうと言われてしまいそうな気がします。しかし十分に表現できていなかったとしても、先輩たちはあなたのことをつっかりと見ているということだけは伝わってくれたらと思います。

【生活支援部 職員 山崎 ゆき奈】

私が所属している生活支援部では職員以外にアルバイト、パートとして家庭を持たれている主婦層から大学生まで幅広い年齢層の方が所属されています。今回は学生ヘルパーと一緒に支援するケースについて紹介します。

私が学生ヘルパーに気を付けていることは、分かりやすく具体的に伝えることです。

家事支援を伝える際に普段自分たちが何気なく行っている食材の買い物や洗濯なども日常的にやっているとイメージしにくいからです。

例えば往診や訪問看護等でどうしても私が利用者と買い物に行けず、ヘルパーに代行してもらうことがあります。そのような時はメモ用紙に「魚2切れ 人参1本…」などできる限り詳細に書いて渡しています。ある日いつもと同じくメモを「サラダ用にブロッコリースプラウトもお願いたしたい」と書きました。すると買ってきてくれたのはブロッコリーとブロッコリースプラウト！最初買い物袋の中からブロッコリーを見つけたので“そうか…ブロッコリースプラウトは分かりづらかったか…”と思っただけですが買ってきてもらったものを片付けているとブロッコリースプラウトも発見。なぜ?と疑問符が浮かびつつも、“買ってきてくれたし…”と

ちらもサラダや料理に使えるし…”と特に深くは聞きませんでした。

このように些細なことでも伝えるむずかしさを感じている日々なのですが、学生時代にお世話になった当時の女性職員を思い出します。「〇〇さんは酸っぱいものが苦手だからあまり果物とか食べないよね」など買い物以外の場面で利用者、学生ヘルパーを交えながら他愛のない会話をし、利用者の理解を深められるよう気にかけて下さっていたように感じます。私もそんな風に出たらいいなと思うのですが日々の支援では目の前のことに精一杯になってしまい、そこまで気を配ることができず…課題は多いばかりです。こんな未熟な私ではありますが、利用者さんやヘルパーと一緒に頑張っ行ってたらと思います。



## 【生活支援部 職員 木村 恵利加】

私が職員になった15年前と今を比べると、それぞれの利用者の身体状況や取り巻く環境が大きく変わっています。健康面でいえば、加齢に伴い新たな疾患や2次障害への不安も増え、支援者は日々の体調変化を気にかけるだけではなく、他職種（主治医、訪問看護・リハビリ）との連携や急な体調変化に伴う緊急対応をする場面があります。自立生活をする利用者のうち365日通しての支援が必要な方も増え、中には、3〜4つのヘルパー派遣事業所が関わっている方もいます。また利用者自身が年を重ねることで感じる体の変化や、親御さんとの死別を経験することで、10年後20年後の見通しや老後の準備等を利用者も職員も視野に入れて考えるようになってきました。

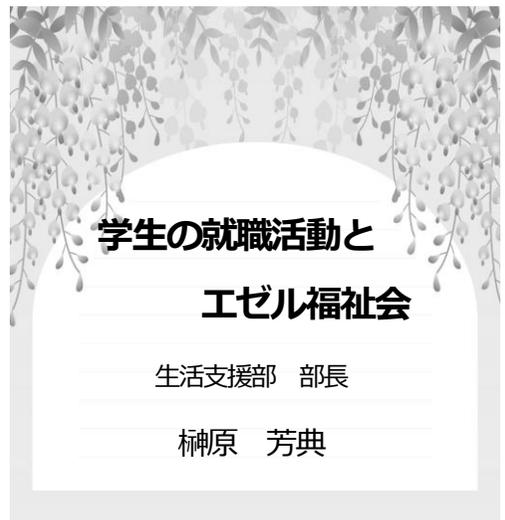
こうした利用者の支援に経験が浅くても現場の戦力となっている若い職員のプレッ

シャーは、相当なものでしょう。また職員の勤務形態は生活支援部特有のシフト制であることから、職員同士が現場で重なることが少ないだけでなく、顔を合わせる機会すら限られるので、小さな悩みや疑問が個々に積み残ってしまう環境にあります。本来ならば、日常の利用者との何気ないやり取りの喜び、楽しみまで、日々共有できるのが理想なのですが、

育成の取り組みとしては外部研修（社会人マナー、記録の書き方、障害理解等）への参加、心理士が本部に常駐する環境を作る、記録に残せない日々の想いを実践ノートという形で各現場に留意し共有する、新人職員には年の近い先輩が育成担当職員としてOJTを行っていく、職員が自身と向き合って記入する評価シート等を実施しています。他にも、職員が顔を合わせる時間を意識的に作るうと職員座談会を開くことも試しています。

それでも、コロナ禍の影響等で、現場の忙しさを言い訳に、実施が後回しにされてしまいうことが良くあります。今までは上記に挙げたような生活支援部の環境の特殊性を難しさの理由にしていますが、環境は変えられないものですし、私自身の勤続年数とグループホーム主任という立場としても、そろそろ解決手段を見出さなくてはと思っています。

考えているのは、エゼル福祉会ならではの育成プログラムを整理していくことです。育成の目標に見据えるのは職員の定着だけではなく、今後エゼル福祉会が新たな事業展開をしていくうえで、現場のリーダーを担える人材が育つことです。いま行っている取り組みを生かせれば良いですが、改めて利用者の生活を支えるために身に着けてほしい知識や力は何かを分析して育成を担う職員と一緒に考えてみたいと思っています。



「今までお世話になりました、職員さんたちは優しく親切で居心地がよかったです。」この春、卒業した学生たちが事務所にお礼を伝えにきていました。社交辞令もあると思いますが、一緒に働いてきた職員や職場に対して一定の評価があるように感じます。

それなのに何故かエゼル福祉会は就職先として選ばれず、学生たちは他の施設に就職してしまいました。今期、新卒者採用は0名と深刻な状況です。

近隣の方からの応募や、学生ヘルパー・ボランティアは増加していますし、給与等の処遇も悪くない、就職先として決して他所に見劣りすることはないと思いますが、学生たちにいったい何をアピールすればいいのでしょうか。

事務局会議の中で、他法人の処遇を調べて比較してみたり、奨学金の一部を補助する案、就職祝い金を出す案など、様々な意見が議論されました。他事業所との処遇競争の泥沼にはまっけていくジレンマや、そもそも処遇そのものは他と比較して見劣りしていないことがわかり、議論は煮詰まってしまうました。

大川理事長が視点を変えて、事業所のアピールも大切だが学生たちが何に関心をもっているかを丁寧に分ける場所が必要ではないかと進言し、いつも前向きな事務部門

の主任が「エゼル福祉会独自で就職相談会を開いて学生さんと話しましょうよ!」と提案したことで、善は急げと4月に法人本部で学生向けの就職相談会を行うことになりました。

二人の迫力に圧倒されながら、「丁寧に聞く」のなら説明会のような集団の場よりも、気心の知れた職員が個別に話したほうがいいのではないかと私は考えていました。しかし、はっと思い出したのが、「優しく親切で居心地がよかったです」という冒頭の学生ヘルパーたちの言葉です。

日頃から職員たちは、学生ヘルパー各々の気質に配慮して、不安やストレスはなるべく少なく、やりがいではなくたくさん感じてもらえるように接していると思います。「居心地がいい」と言ってもらえたことはその成果です。

一方で、「就職」は人生の大きな転機とな

るため、居心地の良さだけでなく、「就職や将来についてどう考えているか」、「どんな社会人になりたいか」と、真剣に問う機会も必要だったかもしれません。

普段接点の少ない管理職や運営者と直接話す就職相談会を行うことで、居心地のいい日常とは別に、学生自身が進路について向き合う雰囲気を作れるのではないかと感じました。

また、就職や将来についてどう考えているか、どんな社会人になりたいかと、「個別」に問われればプレッシャーかもしれないが、相談会という「集団」の場であれば、「一人が問われているのではなく、みんな人生の岐路に立つ時なんだ」と奮起できると思います。

今回、急な開催だったこともあり参加者はわずか2名でしたが、2名とも熱心に対話し

てくれ、1名は履歴書を提出してくれました。

実際やってみたことで、職員個々が支援中に相談に乗るだけでなく、事業所として就職を意識する機会や雰囲気をつくることの大切さを感じました。

今回の反省を踏まえ、次回は親交のある他法人にも声をかけ、参加した学生が様々な事業所と話せるようにしたいと思います。会場はアクセスの良い名古屋駅で借り、学生が参加しやすい夏休みに開催できるよう準備を始めました。

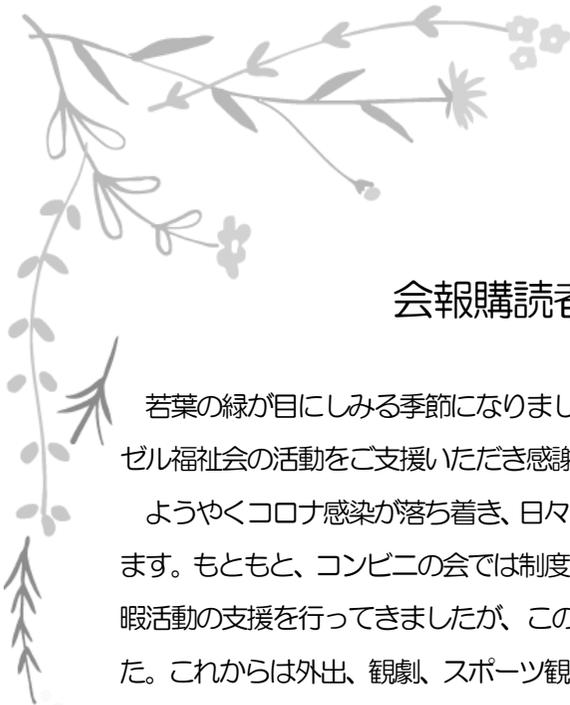
「暮らしの場建設」が具体的になりつつある今、良い援助者との出会いに期待しています。



3つのブースに分かれて  
エゼル福祉会について  
知りたいことをお話しました



説明会が終わった後は  
パウンドケーキを食べながら  
座談会～♪



おねがい

## 会報購読者の皆さまへ

若葉の緑が目にしみる季節になりました。日頃、皆様方にはコンビニの会、エゼル福祉会の活動をご支援いただき感謝しております。

ようやくコロナ感染が落ち着き、日々の活動の不自由さから解放されつつあります。もともと、コンビニの会では制度外になる障害者のレクリエーションや余暇活動の支援を行ってきましたが、この3年間はいろいろと制限されてきました。これからは外出、観劇、スポーツ観戦など積極的に活用してもらいたいと思います。

また、暮らし助け合い事業は制度のすき間を埋めるサービスとして、自宅療養のお手伝いなどの場面で利用されました。

地域サロンうたさとでは、4月より演奏会を再開しました。演奏していただける方、お手伝いしていただける方を募集していますのでお知らせください。

いよいよ中小田井の新施設の青写真が描かれ、建設に向けて一歩踏み出しました。コンビニの会として主体的に関わることになり、身の引き締まる思いであります。障害者の生活を豊かにすることに加え、安心してご家族に送り出していただけよう万全な準備をしていきます。

会報では引き続き読者の皆様に障害者を取り巻く制度や生活の様子に関心を持っていただけるような記事を掲載したいと考えています。西区赤城町にあります当法人が所有するマンションが満室で全般的には黒字ですが、会報部門は赤字が続いています。会報定価は150円です。1000円頂けますと助かります。趣旨をご理解いただける方のみで結構です。強制ではございませんので、ご承知ください。

特定非営利活動法人コンビニの会 理事 宮川優子



事務局コーナー



「ご協力ありがとうございました」

3月～4月（敬称略・順不同）

★ ご寄付いただいた方々

(NPO 法人コンビニの会)

※会報購読料1万円以上お振込みの方

イトウキンヤ

(社会福祉法人エゼル福祉会)

イオンワンダーシティ

マックスバリュ鳩岡

★ 物品寄付をいただいた方々

(コンビニハウス)

木全和巳 加納國夫

大野会計事務所 小出美穂

(WILL)

小出美穂 加藤 歩

(VOLO)

塩澤しのか 安永麻里

木下楓奈子 小出美穂

遠藤麻衣子 坪内美紀

★ 活動にご協力いただいた方々

(コンビニハウス)

大森 信 石原正寅 田村淳仁

石原まち 寺西 剛 鈴木千春

東原光江 榊原さち 酒井まみ子

辻本道子 栗本博美 玉那覇詠洸

後藤 楓 鈴木悠太 平林千聖都

西川昇吾 小林愛恵 長谷川美緒

土田京加 篠田倫子 渡部陽妃

桐澤 潮 松井暖実 山本 武

西 亮憲 梶田里奈 北出麻衣

田口直子 榊原つぐみ

★ 会報発送ボランティア

半田素子 佐藤美紀子

丹羽正子 藤田ますえ

吉田嘉子 渡辺世津子





## NPO 法人コンビニの会よりお知らせ

障害を持っていても情緒豊かな暮らしをしたい。そんな願いをかなえてくれる身近な場所、「地域音楽サロン」が再開しました。クラシックやジャズ、様々なジャンルの音楽がおいしいケーキと共に月替わりで提供されています。(次ページに4月サロンの様子あります)

様々なイベントに参加するにはチケット代が必要です。しかし、介助者を必要とする障害者にとっては、イベント料金は自分と介助者、合わせて2人分、時には3人分の負担が必要となります。そんな負担を少しでも軽くしたいという願いからNPO法人コンビニの会では「余暇活動支援基金」をつくり、介助者分の費用負担を行うことになりました。

コロナ禍となり外出機会が制限された時期には、通所施設内に人形劇団を招き、外出以外で文化に触れる機会を提供する企画へも枠を広げて支援してきました。この支援は、障害のある人達が社会参加の機会を多く持てば持つほど育てられていきます。「余暇活動支援基金」を広めることで障害当事者、支援者が情緒豊かな暮らしを実現していけることを願っています。

特定非営利活動法人コンビニの会 渥美 匡史

### 4月の音楽サロンに来られた水野香織さんにインタビュー♪

コロナ禍で演奏を聴く機会がなかったから聴けて良かった。また行きたいです。

香織さんのコメント



一番右：水野香織さん  
ヘルパーさんと楽しみました

# 音楽サロン再開です♪

新型コロナウイルス感染症の影響で長らくお休みしていましたが  
2023年4月1日に再開しました



ヴァイオリニスト 田村 信子さん



ピアニスト 宮崎 仁子さん

## 【銀行口座】

三菱UFJ銀行 小田井支店 店番 238 (普) 口座番号 1440108  
特定非営利活動法人 コンビニの会

【郵便振替口座】番号 00800-2-35190 コンビニの会

ご意見・ご質問・お問い合わせは下記までお寄せください。

障害のある人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人

〒452-0807 名古屋市西区歌里町 147 番地

コンビニハウス Tel (052) 502-7731

Fax (052) 505-6082

コンビニの会

理事 宮川 優子

URL <https://ezeru.or.jp/>

E-mail [convini@ezeru.or.jp](mailto:convini@ezeru.or.jp)

